

平成28年度 事業報告書

()内は前年度

公益目的事業 1 ～長寿科学研究等支援事業～

長寿科学に携わる研究者に対して、その研究費などを支援する事業

(1)長寿科学政策研究推進事業【厚生労働省補助金】

7,852 千円
(12,104 千円)

本推進事業は、厚生労働科学研究費補助金の一つである「推進事業」として、厚生労働省に採択された研究者の長寿科学政策研究課題を支援するため、(1)外国人研究者招へい事業、(2)外国への日本人研究者派遣事業、(3)若手研究者の育成活用事業、(4)国際共同研究事業、(5)研究成果等普及啓発事業を行った。具体的には、効果的・効率的な介護予防の実施や利用者の状態に応じた適切な介護サービスを提供し、介護保険制度の持続可能性を高めるため、地域包括ケアシステムの構築・維持に資する科学的検証を行う政策研究を支援するものである。なお、本事業は事業計画の公募により、当財団が応募した事業計画が採択された結果に基づき補助金が交付されている。

No.	事業名	計画数	応募数	実施数	備考
①	外国人研究者招へい事業	1名	0名	0名	
②	外国への日本人研究者派遣事業	1名	0名	0名	
③	若手研究者育成活用事業	1名	1名	1名	7/1 採用
④	国際共同研究事業	1課題	2課題	1課題	7/1 より研究事業開始
⑤	研究成果等普及啓発事業	研究者向け発表会	1会場	東京 3課題	平成29年2月3日(金) KKR ホテル東京で開催
		一般向け発表会	1会場	1会場 熊本	平成28年12月4日(日) 荒尾総合文化センターで開催
		パンフレット作成	1式		当該年度で終了する研究代表者がいないため作成せず

①外国人研究者招へい事業

長寿科学政策研究の分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進するもの。平成28年度については、1次募集(平成28年4月1日から5月20日)と2次募集(平成28年6月13日から7月29日まで)を行ったが応募がなかったため、実施を見送った。

②外国への日本人研究者派遣事業

わが国の若手研究者を外国の研究機関や大学等に派遣し、技術を習得させ、長寿科学政策研究の推進を図るもの。平成 28 年度については、平成 28 年 4 月 1 日から 5 月 20 日まで公募したが応募はなく、研究代表者から応募の意向がなかったことから 2 次募集は行わず実施を見送った。

③若手研究者育成活用事業

若手研究者を一定期間(原則 1 年、最長 3 年まで継続)財団の非常勤職員として採用し、研究機関等において研究に専念させることにより、将来の我が国の長寿科学政策研究の中核となる人材の育成を図った。

平成 28 年度採用実績

No.	氏名	①受入研究者(役職) ②研究機関	研究課題	備考
1	齋藤 順子	①近藤 尚己 (准教授) ②東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻健康教育・社会学分野	要介護状態の変化パターンとその予測要因の解明に関する縦断研究	新規採用

④国際共同研究事業

外国の研究者と日本の研究者が、共同で研究に取り組むことへの支援を行った。

平成 28 年度採用実績

No.	氏名	所属 (役職)	研究機関(共同研究国)	共同研究課題
1	白井 こころ	琉球大学法文学部 (准教授)	ロンドン大学、ミシガン社会調査研究所、フィンランド労働衛生研究所 (イギリス、アメリカ、フィンランド)	健康と自立生活の社会的決定要因に関する国際比較研究:Japan-US-UK-Finland の高齢者における検討

⑤研究成果等普及啓発事業

厚生労働科学研究の研究成果を広く積極的に公開し、普及啓発することにより、科学研究に対する一層の理解の推進を図ることを目的としている。厚生労働科学研究の優れた研究成果を紹介するため、関係の深い専門的研究を行っている研究者や、一般国民を対象とした発表会を全国各地において開催及び当該研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

a.研究者向け発表会(演者:平成 27 年度に推進事業で採択された事業の研究者)

【開催日】平成 29 年 2 月 3 日(金)

【開催場所】KKR ホテル東京 11 階 丹頂の間

【参加者数】約 50 人

平成 28 年度 発表演者

No.	氏名	所属(役職)	発表テーマ
1	谷 友香子	東京医科歯科大学 (特別研究員)	(H27 推進事業:若手育成) 高齢者の孤食の社会的背景および孤食が及ぼす健康影響に関する研究
2	近藤 尚己	東京大学大学院 医学系研究科 (准教授)	(H27 推進事業:外国人研究者の招へい) 高齢者における健康情報へのアクセスとその活用に関する社会経済格差とその対策法に関する研究
3	白井 こころ	琉球大学法文学部 (准教授)	(H27 推進事業:国際共同研究) 日米英芬の高齢者の社会心理背景と健康格差の国際比較研究

b.平成 28 年度一般向け発表会

No.	開催日時	開催場所	氏名・役職	発表テーマ	参加人数
1	平成 28 年 12 月 4 日(日) 13:30~16:00	熊本県荒尾市 荒尾総合文化センター	石川 智久 熊本大学大学院 生命科学研究部 助教	認知症のひとの生活を支える在宅ネットワーク	250 人

c.パンフレット作成

平成 28 年度が最終年度となる研究代表者がいないため、当該年度は研究成果を普及するパンフレットの作成は行わなかった。

(2) 認知症政策研究推進事業【厚生労働省補助金】

8,082 千円
(11,399 千円)

本推進事業は、厚生労働科学研究費補助金の一つである「推進事業」として、厚生労働省に採択された。研究者の認知症政策研究課題を支援するため、(1)外国人研究者招へい事業、(2)外国への日本人研究者派遣事業、(3)若手研究者の育成活用事業、(4)国際共同研究事業、(5)研究成果等普及啓発事業を行った。具体的には、認知症の「実態把握」「病態解明」「予防法」「治療法」「社会問題解決」「介護者の負担軽減」などの観点に立って、必要な医療・介護体制、社会基盤の整備に活用される研究を支援するものである。なお、本事業は事業計画の公募により、当財団が応募した事業計画が採択された結果に基づき補助金が交付されている。

No.	事業名		計画数	応募数	実施数	備考
①	外国人研究者招へい事業		1名	1名	1名	
②	外国への日本人研究者派遣事業		1名	0名	0名	
③	若手研究者育成活用事業		1名	1名	1名	7/1 採用
④	国際共同研究事業		1 課題	1 課題	1 課題	7/1 より研究事業開始
⑤	研究成果等普及啓発事業	研究者向け発表会	1 会場		東京 5 課題	平成 29 年 2 月 3 日(金) KKR ホテル東京で開催
		一般向け発表会	1 会場	1 件	1 会場 愛知	平成 28 年 12 月 13 日(火) 東海市芸術劇場で開催
		パンフレット作成	1 式		1 式 2,600 部	

①外国人研究者招へい事業

認知症政策研究の分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進するもの。

平成 28 年度採用実績

No.	招へい研究者	①国名 ②所属 ③職名	招へい期間	①受入研究者 ②所属 ③職名 ④招へい地	共同研究課題
1	アンダース ウィーモ	①スウェーデン ②カロリンスカ研究所神経生物学・介護社会科学神経老年医学分野 ③教授	1/5～ 1/14 (10 日間)	①今中 雄一 ②京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 ③教授 ④京都市左京区	認知症のインフォーマルケアに関する国際共同研究

②外国への日本人研究者派遣事業

わが国の若手研究者を外国の研究機関や大学等に派遣し、技術を習得させ、認知症政策研究の推進を図るもの。平成 28 年度については、平成 28 年 4 月 1 日から 5 月 20 日まで公募したが応募はなく、研究代表者から応募の意向がなかったことから 2 次募集は行わず実施を見送った。

③若手研究者育成活用事業

若手研究者を一定期間(原則 1 年、最長 3 年まで継続)財団の非常勤職員として採用し、研究機関等において研究に専念させることにより、将来の我が国の認知症政策研究の中核となる人材の育成を図った。

平成 28 年度採用実績

No.	氏名	①受入研究者(役職) ②研究機関	研究課題	備考
1	林 慧茹	①今中 雄一(教授) ②京都大学大学院医学研究科医療経済学分野	認知症高齢者を支える効果的・効率的な医療介護体制のあり方の評価研究	新規採用

④国際共同研究事業

外国の研究者と日本の研究者が、共同で研究に取り組むことへの支援を行った。

平成 28 年度採用実績

No.	氏名	所属(役職)	研究機関(共同研究国)	共同研究課題
1	今中 雄一	京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 (教授)	ロンドン大学キングスカレッジ、カロリンスカ研究所(イギリス・スウェーデン)	認知症の地域ケア体制におけるケア内容、居住形態、費用とその関連要因

⑤研究成果等普及啓発事業

厚生労働科学研究の研究成果を広く積極的に公開し、普及啓発することにより、科学研究に対する一層の理解の推進を図ることを目的としている。厚生労働科学研究の優れた研究成果を紹介するため、関係の深い専門的研究を行っている研究者や、一般国民を対象とした発表会を全国各地において開催及び当該研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

a. 研究者向け発表会(演者:平成 28 年度で研究課題終了予定の研究代表者および平成 27 年度に推進事業で採択された事業の研究者)

【開催日時】平成 29 年 2 月 3 日(金)

【開催場所】KKR ホテル東京 11 階 丹頂の間

【参加者数】約 50 人

平成 28 年度発表演者

No.	氏名	所属(役職)	発表テーマ
1	今中 雄一	京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 (教授)	認知症の介護・医療地域体制の実態・課題の 可視化と系統的把握方法の研究開発
2	安村 里絵	東京都済生会中央病院 麻酔科 (医員)	麻酔方法が術後認知機能に与える影響につい ての研究
3	田宮 寛之	東京大学大学院 医学研究科老年病科 特任助教	(H27 推進事業:若手育成) 認知症高齢者の介護負担軽減を目指したせん 妄・転倒骨折予防法の探索
4	今中 雄一	京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 (教授)	(H27 推進事業:外国人研究者の招へい) 認知症ケアの地域差の探索、およびエビデンス に基づいた政策立案
5	今中 雄一	京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 (教授)	(H27 推進事業:国際共同研究) 認知症の地域ケア体制におけるケア内容と費 用の関連要因と代替性

b.平成 28 年度一般向け発表会

No.	開催日時	開催場所	氏名・役職	発表テーマ	参加人数
1	平成 28 年 12 月 13 日(火) 13:30~16:30	愛知県東海市 東海市芸術劇 場	竹田 徳則 星城大学 リハビリテーション学部 教授	社会参加促進による認 知症予防	200 人

c.パンフレット作成

厚生労働科学研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

(3)長寿科学研究者支援事業【自主財源】30,669 千円
(28,526 千円)

長寿科学研究に携わる若手研究者を対象に、その研究活動を幅広く財政的な支援を実施することにより、研究者の育成と長寿科学の振興を図った。1人あたりの支援限度額は3年間で600万円としている。

	計画数	応募数	実施数	備考
継続研究支援 (3年目)	3名	3名	2名	H28年2月22日:評価審査委員会にてプレゼンテーションによる研究成果の発表により審査の結果、8名継続を決定した。
継続研究支援 (2年目)	6名	6名	6名	
新規研究支援 (1年目)	6名	142名	9名	H28年5月17日:評価審査委員会にて申請分の審査を行った。

平成28年度 採択状況

No.	研究者	所属施設	研究課題	期間	申請金額 (円)	助成金額 (円)	摘要
1	竹藤 幹人	名古屋大学医学部付属病院	心臓・骨格筋の加齢変化を制御するリン酸化酵素の網羅的解析	26-28 3年計画 3年目	2,000,000	1,700,000	継続
2	守谷 恵未	国立長寿医療研究センター	誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア手法およびその専用口腔ケアジェルの開発	26-28 3年計画 3年目	2,000,000	1,700,000	継続
3	夏賀 健	北海道大学病院	基底膜蛋白の減少による皮膚老化メカニズムの解明	27-29 3年計画 2年目	2,000,000	1,700,000	継続
4	鶴川 重和	北海道大学大学院	高齢者の認知機能とα-ディフェンシン、腸内細菌叢およびその相互作用の解明	27-29 3年計画 2年目	2,000,000	1,700,000	継続
5	杉本 昌隆	国立長寿医療研究センター	呼吸器の加齢性変化と疾患機序の解明	27-29 3年計画 2年目	2,000,000	1,699,478	継続
6	相田 潤	東北大学大学院	急増する都市部の高齢者のフレイル予防・介護予防につながる社会環境・保健行動の研究	27-29 3年計画 2年目	4,102,020	3,486,717	継続
7	柳澤 琢史	大阪大学大学院	高齢者の認知機能を改善するニューロフィードバック療法の開発	27-29 3年計画 2年目	2,000,000	1,700,000	継続

No.	研究者	所属施設	研究課題	期間	申請金額 (円)	助成金額 (円)	摘要
8	平野 優	国立長寿医療研究センター	高齢者の再入院率に関する研究 (診療看護師によるフォローアップ の関わりから)	27-29 3年計画 2年目	2,000,000	367,013	継続
9	佐藤 敬子	香川大学	高齢者の視覚特性を考慮した色弁 別を補助するモニタ用フィルタの設 計	28-29 2年計画 1年目	1,664,300	1,664,300	新規
10	赤崎 幸穂	九州大学病院	長寿遺伝子である FOXO 転写因子 の活性化による変形性関節症治療	28-29 2年計画 1年目	1,500,000	1,500,000	新規
11	辻 大士	千葉大学	健康・介護・医療データ連携による 要介護リスク指標の作成と利活用モ デルの構築	28-30 3年計画 1年目	2,000,000	1,500,000	新規
12	橋本 祐介	大阪市立大学大学院	変形性膝関節症の早期診断とロコ モ体操における軟骨マーカー変化 の検討	28-30 3年計画 1年目	838,200	838,200	新規
13	田中 都	名古屋大学	加齢性脂肪組織リモデリングの分子 機構の解明と医学応用	28-30 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
14	佐治 直樹	国立長寿医療研究センター	レジストリデータに基づいた経口抗 凝固薬を適切に選択するための戦 略	28-30 3年計画 1年目	2,000,000	1,993,456	新規
15	楠山 譲二	鹿児島大学大学院	老齢化がもたらす骨芽細胞分化方 向の攪乱と骨量・骨質との連関	28-30 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
16	高橋 英彦	京都大学大学院	精神病として超長期入院している潜 在的な前頭側頭型認知症の実態調 査	28-30 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
17	清家 理	国立長寿医療研究センター	軽度認知症障害および初期認知症 をもつ人への心理的アプローチに よる当事者・家族介護者相互効果 検証研究	28-30 3年計画 1年目	2,000,000	1,500,000	新規
合 計					34,104,520	29,049,164	

(4)長寿科学関連国際学会派遣事業【自主財源】

3,211千円

(3,196千円)

長寿科学研究に携わり優れた研究成果をあげた若手研究者を、海外で開催される関連国際学会に研究成果発表のため派遣し、長寿科学研究の国際協力・国際交流を図るとともに、研究者育成に寄与する事業として実施した。1年を3期に分け、每期3～4名、年間で12名の派遣を計画し14名に助成した。なお1人当たりの支援限度額を40万円としている。

No.	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
1	1	岩田 祐輔	慶應義塾大学 医学部 精神・神経科 (助教)	統合失調症国際 研究学会 イタリア フィレンツェ	平成28年 4月2日～ 4月6日 (5日間)	老年期統合失調症における高プロラクチン血症とドパミン占拠率の関係[11C]-raclopride PET 研究	185,286円
2	1	佐治 直樹	国立長寿医療 研究センター もの忘れ外来 部 (医長)	第2回欧州脳卒 中機構会議 スペイン バルセロナ	平成28年 5月10日～ 5月12日 (3日間)	心房細動における虚血性脳血管障害急性期における抗血栓療法の実態調査:多施設共同前向き観察研究	216,630円
3	1	石井 伸哉	東京大学医学 部附属病院 (助教)	アメリカ老年医学 会 2016 学術総 会 アメリカ ロングビーチ	平成28年 5月19日～ 5月21日 (3日間)	日本人高齢者における要介護、慢性疾患、死亡率の性、年齢別推移の調査	202,890円
4	1	坪谷 透	東北大学大学 院 歯学研究 科 (助教)	米国疫学総会 アメリカ マイアミ	平成28年 6月21日～ 6月24日 (4日間)	震災から回復する力(レジリエンス) 東日本大震災からの教訓	304,180円

No.	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
5	2	小山 明日香	熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野 (助教)	第 10 回国際前頭側頭型認知症会議 ドイツ ミュンヘン	平成 28 年 8 月 31 日～ 9 月 2 日 (3 日間)	軽度前頭側頭型認知症における介護者の介護負担の特徴:前頭側頭葉変性症、右優位および左優位の意味性認知症の比較	ドイツにおいてテロ事件が発生し警戒情報が出されたため辞退
6	2	遠又 靖丈	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野 (講師)	第 17 回国際栄養士会議 スペイン グラナダ	平成 28 年 9 月 7 日～ 9 月 10 日 (4 日間)	日本の高齢者における食事パターンと認知症発生:大崎コホート 2006 研究	293,890 円
7	2	赤木 龍一郎	千葉大学医学部附属病院 (助教)	第 37 回 SICOT 国際整形外科学会 イタリア ローマ	平成 28 年 9 月 8 日～ 9 月 10 日 (3 日間)	後十字靭帯付着部剥離骨折に対する関節鏡視下整復内固定術の開発	183,670 円
8	2	石川 正昭	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (大学院生)	内耳研究会 フランス モンペリエ	平成 28 年 9 月 17 日～ 9 月 21 日 (5 日間)	人工内耳埋め込み術における術後の聴神経複合活動電位 (eCAP) と電気聴性脳幹反応 (eABR) の有用性、ならびにその違いの検討	144,223 円
9	2	山田 容子	東京大学医学部附属病院老年病科 (助教)	The 12th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society ポルトガル リスボン	平成 28 年 10 月 5 日～ 10 月 7 日 (3 日間)	Associations between frailty and no prescription of anticoagulant therapy among older inpatients	331,980 円

No.	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
10	2	只腰 春菜	東京工業大学 総合理工学研 究科物理情報 システム専攻 (大学院生)	第5回日米音響 学会ジョイントミ ーティング アメリカ ハワイ	平成28年 11月28日 ～ 12月2日 (5日間)	注射針のたわみ 振動を用いた超 音波浮揚におけ る液滴の注入	217,340円
11	3	祢里 真也	京都大学大学 院医学研究科 呼吸器外科学 (大学院生)	第17回世界肺癌 学会 オーストリア ウィーン	平成28年 12月4日～ 12月7日 (4日間)	寿命延長操作に よるがん関連線 維芽細胞のクロ ーン株樹立とそ の多様性に依存 するがん細胞浸 潤の解析	174,150円
12	3	寺田 沙耶	大阪大学医学 系研究科 (修士課程)	2016年国際老年 精神医学会:アジ ア地域会 中華民国 台北	平成28年 12月9日～ 12月11日 (3日間)	長期療養施設の 認知障害をもつ 入居者における 薬剤パターンの 異文化比較	90,690円
13	3	目黒 明	横浜市立大学 医学部眼科学 (特任講師)	アジア視覚・眼科 研究協会会議 2017 オーストラリア ブリスベン	平成29年 2月5日～ 2月8日 (4日間)	全エクソーム解 析による遅発型 発達緑内障の新 規原因遺伝子の 同定	162,190円
14	3	小守林 靖一	岩手医科大学 (助教)	国際脳卒中会議 2017 アメリカ ヒューストン	平成29年 2月22日～ 2月24日 (3日間)	脳卒中急性期患 者を対象とした 発症後早期から の摂食機能訓練 介入効果の検討	発表ポスター が学会に採 用されなかつ たため辞退

No.	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
15	3	徳重 真一	東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科(大学院生)	2nd International Brain Stimulation Conference スペイン バルセロナ	平成 29 年 3 月 5 日～ 3 月 8 日 (4 日間)	The Effect of deep brain stimulation on visual scanning of Parkinson's disease patients	219,810 円
16	3	小山 史穂子	東北大学大学院歯学研究科口腔保健発育学講座国際歯科保健学分野(助教)	国際歯科研究学会 アメリカ サンフランシスコ	平成 29 年 3 月 22 日～ 3 月 25 日 (4 日間)	高齢者における睡眠時間と現在歯数の関係	226,850 円
平成 28 年度 採用者:16 人 第 1 期(4 人) 第 2 期(6 人) 第 3 期(6 人) 辞退(2 人) 平成 28 年度 応募者数 :54 人 第 1 期(21 人) 第 2 期(20 人) 第 3 期(13 人)							2,953,779 円

(5)若手研究者表彰事業【自主財源】

1,600千円
(2,614千円)

若手研究者表彰事業は、平成12年度から実施しており、当時、財団が行っていた厚生労働科学研究推進事業に携わる研究者の中から、優れた研究成果をあげた方を審査評価し表彰することとして、スタートした。平成23年度までは、表彰を「財団会長賞」、「財団理事長賞」、「財団奨励賞」として行ってきたが、平成24年度からは、表彰の対象を厚生労働科学研究に関わる研究者のみではなく、広く長寿科学研究に携わった研究者とすることとし、表彰名を「長寿科学賞」として表彰し、正賞楯および副賞を贈呈している。なお、副賞には研究費を交付している。

【平成28年度 受賞者】

氏名	所属機関・職名	研究課題名	研究期間
遠又 靖丈	東北大学大学院 医学系研究科 講師	日本型食生活は健康寿命の 延伸に寄与しうるのか：コホー ト研究による要介護・認知症と の予防的関連の検討	平成24年度～ 平成28年度

【表 彰 式】

- ・日時:平成28年11月11日(金)
- ・場所:キャッスルプラザ 4階 梓の間



公益目的事業 2 ～情報提供事業～

長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供する事業

(1)業績集の発行【自主財源】

7,532 千円

(7,362 千円)

長寿科学研究の学術的研究成果の中で、社会のニーズにあったテーマを定め、毎年 1 回、医療従事者向けに編集した研究マニュアルを業績集として発刊し、全国の自治体、病院、大学などの関係機関に無償配布し、その活用を図ることにより研究成果の普及啓発を図った。

今年度は、高齢者の睡眠障害を中心に専門家の意見や研究成果をまとめた『高齢者の睡眠とその障害』を 5,000 部作成した。



(2)機関誌の発行【自主財源】

18,223 千円

(18,368 千円)

健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かり易く広報するために、機関誌「Aging & Health(エイジングアンドヘルス)」を年に 4 回(春・夏・秋・冬)各 8,000 部発刊し、全国の自治体、国立病院、大学などの関係機関、地域包括支援センターなどに無償配布した。

なお、財団 HP でも閲覧を可能にし、多くの方にご覧いただいている。

誌面の主な内容は、85 歳以上の高齢者で、いまでも元気にご活躍している著名人のインタビュー、健康長寿に関するテーマの特集、ちょっと一息できるものエッセイなどとなっている。



(3)健康長寿ネット【自主財源】

24,585 千円
(18,579 千円)

本財団のホームページ「健康長寿ネット」は、老化予防、健康づくり、疾病、介護予防など健康長寿に関する情報をインターネットを通じて広く国民に提供している。

また、介護予防のために、高齢者やその家族がいつでも運動機能など生活機能チェックができ、厚生労働省の「介護サービス情報公表システム」にて全国の相談窓口を検索することができる。

①平成 28 年度実施事項

平成 28 年 10 月 17 日に財団ホームページ及び健康長寿ネットをリニューアル公開した。リニューアルに係る主な実施事項は以下のとおり。

1. 新 CMS の導入

アルファサード株式会社 PowerCMS を導入。

2. 健康長寿ネット情報分類の変更

変更前(578 記事)	変更後(732 記事)
長寿(263 記事)	健康長寿とは(263 記事)
医療(226 記事)	高齢者の病気(342 記事)
介護(78 記事)	高齢者を支える制度とサービス(78 記事)
トピックス(11 記事)	対談・特集・研究情報(49 記事)

3. ウェブアクセシビリティ (JIS X8341-3:2016) の確保

障害者差別解消法(2016 年 4 月施行)に基づき、ウェブアクセシビリティ(JIS X8341-3:2016)の適合レベル AA の準拠を目標に、財団ホームページ及び健康長寿ネットのサイト構造のリニューアルを行った。

リニューアル後に JIS に基づく試験を実施した結果、財団ホームページは「適合レベル AA 一部準拠」、健康長寿ネットは「適合レベル A 一部準拠」であった。



②健康長寿ネットアクセス実績

1. アクセス数推移（単位：千アクセス）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
アクセス数	345	928	1,177	1,264	1,559	1,824	2,297	2,947	3,340	3,160	2,140
前年比	-	269.2%	126.8%	107.4%	123.3%	117.0%	125.9%	128.3%	113.3%	94.6%	67.7%

2. アクセス内容

項目 (年度)	アクセス数 (単位：千アクセス)	閲覧頁数 (単位：千アクセス)	1 訪問あたり閲 覧頁数	平均閲覧時間	直帰率	新規アクセス率
H28	2140	3,446	1.63	1:14	81.0%	83.8%
H27	3160	4,924	1.56	1:04	82.1%	82.4%
前年比	67.7%	70.0%	105.0%	115.6%	-1.1	+1.4

3. 訪問者属性（年齢別・性別・閲覧環境）

A) 年齢

年齢	18-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65～
H28 割合	27.8%	25.9%	19.6%	13.4%	8.4%	5.0%
H27 割合	22.7%	24.8%	20.3%	14.2%	11.8%	6.2%
前年比	+5.1	+1.1	-0.7	-0.8	-3.4	-1.2

B) 性別

性別	男性	女性
H28 割合	36%	64%
H27 割合	34%	66%
前年比	+2	-2

C) 閲覧端末

端末	モバイル	デスクトップ	タブレット
H28 割合	50.2%	44.3%	5.5%
H27 割合	48.7%	45.7%	5.6%
前年比	+1.5	-1.4	-0.1

D) アクセスランキング（平成 28 年 10 月 17 日～平成 29 年 3 月 31 日）

Rank	タイトル	ページ閲覧回数
1	フレイルとは	46,205
2	サルコペニアとは	45,784
3	廃用症候群	40,551
4	術後せん妄	33,046
5	障害高齢者の日常生活自立度	30,821
6	認知症高齢者の日常生活自立度	29,815
7	経管栄養法の手順	23,665
8	高齢者の摂食・嚥下機能に影響する要因	20,939
9	低栄養	20,023
10	嚥下食とは	15,870

(4)長寿たすけ愛講演会開催事業【自主財源】

7,635 千円

(5,383 千円)

高齢社会の中で、明るく活力のある長寿社会の構築を参加者と共に考え、実践するきっかけづくりの場として、全国で介護予防や健康づくりをテーマとした講演会を開催した。

平成 28 年度開催実績

No.	開催地 日時	内容	参加人数
1	京都府京都市 (京都テルサ) 平成 28 年 10 月 14 日(金) 12:30~15:30	(一財) 京都府老人クラブ連合会との共催 講演 1「自分で取り組む認知症予防の方法」 島田裕之 (国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 部長) 講演 2「認知症予防の実践~コグニサイズ~」 堤本広大 (国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 研究員) 講演 3「花子の生き生きライフ」 宮川花子 (漫才師)	800 人
2	青森県青森市 (ホテル青森) 平成 28 年 10 月 18 日 (火) 14:00~17:00	青森市老人クラブ連合会との共催 講演 1「寿命アップで《老い》を楽しく」 中路重之 (弘前大学大学院 医学部長 教授) 講演 2「元気あっぷる体操のできるまで」 中田吉光 (青森大学経営学部 教授) 講演 3「高齢者 元気のミナモト コツカラだ」 黒石八郎 (津軽漫芸家)	350 人
3	岐阜県多治見市 (バロー文化ホール) 平成 28 年 11 月 12 日 (土) 13:00~16:00	多治見市悠光クラブ連合会との共催 講演 1「世界最高峰をめざすための『超健康法』」 三浦 雄一郎 (プロスキーヤー) 講演 2「すこやかな 100 歳をめざして、 気軽に体操、今日も元気！」 武井正子 (順天堂大学 名誉教授) 講演 3「Dr.らく朝の健康落語」 立川らく朝 (落語家)	1,000 人

No.	開催地 日時	内容	参加人数
4	兵庫県神戸市 (神戸文化ホール) 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 13:00~16:00	神戸市老人クラブ連合会との共催 講演 1 「自分で取り組む認知症予防の方法」 島田裕之 (国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 部長) 講演 2 「認知症予防の実践~コグニサイズ~」 堤本広大 (国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 研究員) 講演 3 「笑いはこころのビタミン剤」 桂 文枝 (落語家)	1,616 人

- ・ 2 会場において財団役員にご臨席を賜った。
京都市：河合忠一 評議員
神戸市：田邊 穰 理事



(5)長寿科学研究普及事業【自主財源】

4,392千円
(4,364千円)

国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを決め、長寿科学研究に関するシンポジウムを開催し、研究成果などの普及啓発を図った。

【第12回長寿医療研究センター 国際シンポジウム】

開催日時:平成29年3月4日(土) 9時00分~17時00分

場所 :あいち健康プラザ 健康宿泊館プラザホール

テーマ :「Frailty and Dementia」(フレイルと認知症 ~メカニズムから予防・治療~)

Frailty and dementia
-From its pathogenesis to prevention and treatment-

9:30~9:35 Opening Remarks Kenji Taki, National Center for Geriatrics and Gerontology

Session I Pathogenesis of frailty and sarcopenia
Moderator: Kazuhiko Yanagisawa, Mitsuo Mureyama

9:35~11:50 Perspective of frailty research in the 21st century
Hidenori Arai, National Center for Geriatrics and Gerontology
Age-Related Physical Frailty and its Complex, Multi-systemic Biological Basis
Jeremy D. Walston, Professor of Medicine, Johns Hopkins University
Molecular mechanism of muscle atrophy in sarcopenia
Shin-ichi Takada, National Central University and Hokuriku
Biology of skeletal muscle aging and application for drug development
Ki-Sook Kwon, Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology
Role of Akt in skeletal muscle in the protection of sarcopenia and aging
Kohjiro Ueki, National Center for Global Health and Medicine

Luncheon Seminar
Moderator: Yukihiko Washimi

12:00~12:50 Randomized controlled trial to prevent frailty/sarcopenia & cognitive decline-Toyota Preventive Intervention for Cognitive decline and Sarcopenia (TOPICS)
Masaharu Konray, Nagoya University

Session II Epidemiological approach for frailty and cognitive impairment
Moderator: Hidenori Arai, Shunshu Saraki

13:00~14:50 Strengths and weaknesses in the choice of a mono- versus multidimensional approach to frailty
Matteo Cesari, Carem Hospital, Università di Padova
Short and long-term effects of a multifactorial intervention for pre-frail and frail elderly on their functional health: a randomized, controlled, crossover trial within a cohort study
Shoji Shinkai, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology
Challenge and impact of Korean Frailty and Aging Cohort Study (K-FACS) on frailty and cognitive impairment research
Chang-Wan Won, Kyung Hee University
Cognitive Frailty and Incidence of Dementia in Older Persons
Hiroyuki Shimada, National Center for Geriatrics and Gerontology

Session III Clinical applications of frailty and dementia
Moderator: Atsushi Harada, Takashi Sakurai

15:00~16:45 Implementation of Integrated Healthy Aging Clinic to investigate frailty and sarcopenia in the clinical setting
Yasumoto Matsui, National Center for Geriatrics and Gerontology
Frailty, cognitive impairment, and disruption of cerebral white matter network in patients with diabetes mellitus
Atsushi Arai, Tokyo Metropolitan General Hospital and Institute of Gerontology
Robotic and rehabilitation approach to frailty and dementia
Kazumi Kondo, National Center for Geriatrics and Gerontology
What factors affect hippocampal volume with ageing? An MRI study from a large scale cohort (NILS-LSA)
Takashi Kato, National Center for Geriatrics and Gerontology
Longitudinal study of frailty and cognitive impairment in Japanese elderly
Hiroyuki Shimokata, Nagoya University of Arts and Sciences

16:45~16:50 Closing Remarks Hidenori Arai, National Center for Geriatrics and Gerontology

ISGG 12th
The 12th International Symposium on Geriatrics and Gerontology

Saturday, 4th March, 2017
9:30-16:50
Health Accommodation Wing, Plaza Hall, Aichi Health Plaza

「フレイルと認知症」
~メカニズムから予防・治療~

日時 2017年3月4日(土) 9:30~16:50
場所 あいち健康プラザ プラザホール
<http://www.alv.pref.aichi.jp/>

お問い合わせ先
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
国際シンポジウム実行委員会事務局
〒474-8511 愛知県大府市南町七丁目49番地
TEL:0562-46-2311 (内線 2503) FAX:0562-88-3007
http://www.ncgg.go.jp/seminar/ISGG_2016.html
参加費 無料 定員300名 申込締切 2017年2月10日(金)
主催 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
共催 公益財団法人長寿科学振興財団

フレイルと認知症
~メカニズムから予防・治療~

2017年3月4日開催
国際シンポジウムの記録から

主催：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
共催：公益財団法人長寿科学振興財団

公益財団法人長寿科学振興財団



公益目的事業 3 ～調査研究事業～

長寿科学に関する調査研究事業

平成 27 年度に終了したアテンプト研究事業の発展研究として、推算糸球体濾過値 (eGFR) 等のデータを収集し長期的なアンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) 治療の腎保護効果と心血管イベント抑制効果を明らかにすることを目的とした「アテンプト 2 研究事業」の実施について、運営委員会において検討し、理事会において平成 29 年度の事業として実施することの承認を得た。

アテンプト 2 研究事業

研究方法: 調査票により各施設から心血管イベントの発生状況ならびに採血、採尿データを収集・分析

登録症例数: アテンプト研究に参加している患者のうち試験継続の承諾を得た 713 人を対象とする

研究代表者: 熊本大学保健センター 准教授 副島 弘文

研究期間: 平成 29 年度～平成 32 年度 (4 年間)

運営委員会

日時: 平成 29 年 2 月 8 日 (水) 14 時～16 時

会場: 名鉄ニューグランドホテル 7 階 花の間

出席委員: 祖父江理事長、齋藤理事、田邊理事、柳澤理事、遠島監事